

平成 30 年度第 2 回富山県公立大学法人評価委員会 議事録概要

1 日 時 平成 30 年 8 月 2 日 (木) 13:30~14:20

2 会 場 富山県庁 4 階大会議室

3 出席委員

[五十音順、敬称略]

氏 名	役 職 等	備 考
梅田 ひろ美	富山県商工会議所女性会連合会 前会長 (株)ユニゾーン 代表取締役会長	
林 幸秀	国立研究開発法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター 上席フェロー	委員長
堀 仁志	堀税理士法人 代表社員 公認会計士	

4 議 事

協議事項

公立大学法人富山県立大学平成 29 年度の業務実績に関する評価書(案)について

5 会議の概要

- ・司会が開会を宣し、総合政策局長より開会の挨拶
- ・司会より、林委員長に議事の進行を依頼し、以後の進行については委員長が行った。

協議事項 公立大学法人富山県立大学平成 29 年度の業務実績に関する評価書(案)について

<事務局説明>

資料 1 に基づき、平成 29 年度の業務実績に関する評価書(案)について説明

(委員長)

- ・前回の評価委員会で特に議論しなかったが、財務関係についてご意見等はあるか。

(委員)

- ・財務諸表等を拝見したところ、自己収入、外部資金の獲得が伸びている一方、経費面についても入札等の活用で支出の節減に努められており、その結果、当期総利益で 1 億 1,700 百万円の黒字決算となっている。
- ・キャッシュフローも問題なく、期末における手持ち資金も余裕があり、健全性が高いと判断している。
- ・その結果として、評価書(案)の項目別評価の「5 財務内容の改善に関する目標」についても、この評価で良いと考えている。
- ・県立大は新校舎や新しい学部、学生数の増など注目度が高い。せっかくのチャンスであり、必要な資金をメリハリを付けて投入していただきたい。

- ・財務の健全性を保ちながらも、大きく変わろうとしている県立大学であり、手持ちの資金を有効に活用していただきたい。

(委員長)

- ・前回の評価委員会の議論を基に、事務局においてこの評価書（案）をとりまとめたところであり、今ほどの堀委員の財務関係のご意見もあったが、本日ご欠席の委員について、事務局において意見等を伺っているか。

<事務局>

- ・福田委員については、海外出張中のことであり、ご意見は頂戴できていない。
- ・大谷委員からは、この評価書（案）でよろしいのではないかと意見をいただいている。

(委員)

- ・富山県民の気性というか控えめな評価ではないかと思っている。
- ・県立大の県民の評価は高く、もっと胸を張ってもよい。
- ・新しく看護学部も新設することもあり、生きた資金を投入して、磐石な揺るがない体制をつくる良いチャンスである。
- ・甘いことを言っているつもりはないが、全てパーフェクトな進捗状況であるといっても良いのではないか。
- ・福田委員とは先ほど電話で話をしたが、同様な意見であった。

(委員)

- ・前回の評価委員会の終了後、県立大の学生さんたちとお話する良い機会をいただいた。県外から来ている学生が多かったが、故郷に帰って、同窓生に自慢できる大学だとの話を聞いて大変うれしかった。
- ・一方、林委員長から、ここを何とかしてほしいという点があるかと問われたところ、学生からは食堂を広くしてほしいとの意見があった。これだけ学生数が増えることでそれに対するインフラ、共有スペースで学生に不便をかけることになるのではないか。
- ・大学は色々配慮しているのだと思うが、そういう学生の声もしっかりと拾って、できることできないことがあるのだと思うが、県立大に来られた学生が来て良かったと思っただけのことが、一番の広報になるのではないかと思う。

(委員長)

- ・私としては、この評価書（案）は前回の評価委員会での議論をきちんと踏まえて丁寧にまとめられており、これで異存はない。
- ・私は法人化する前から県立大と長く関わってきているが、県立大は工学の技術的な、ある意味尖がった大学で、就職率もよく、ERATOなど成果もあげてきている。
- ・今度は看護という全く違う分野のものが入ってくる。それには良いところ、悪いところ両面があると思うが、今までは、尖がったところで力を出してきたところ、尖がったところが減るかもしれないが、良いところとしては、異分野と議論ができる、今でも医薬分野の学科があるが、そういう学科は、より広がりが出てくるということである。

- ・広がりが出てくるということは、経営者、教員の力の見せ所である。看護学部の開設に向けては、丁寧慎重でありながらも積極的に進めていただきたい。
- ・評価書（案）には看護学部開設に向けての課題等がしっかりと明記されており、これで異存はない。
- ・評価委員会は、お目付け役であり、色々と問題点等を指摘することが本来の役割なのかもしれないが、県立大学はしっかりやっている、応援したい気持ちが高い。
- ・贅沢にする必要はないが、これだけ県立大はがんばって成果を出してきているので、県には予算面でも目配りしていただきたい。

(委員長)

- ・皆さんの意見は同じということで、評価書（案）はこれでよろしいかと思うが、何か他にあるか。

(委員)

- ・評価書（案）はこれでよいかと思うが、県立大といえば、工学部という目でしか見られていなかったのが、看護学部が開設されるとがらりと変わってくる。
- ・キャンパスが離れることで色々と問題が出てくると思うので、その辺はしっかり注力してもらいたい
- ・高校生に興味を持ってもらわないといけない、最近の子は親の言うことを聞くので、そちらへの広報も大切である。

(委員長)

- ・委員から貴重なご意見をいただいた。学生の勧誘方法については、工学部とは違ってくるのだと思う。その辺は今後具体的に色々やっていかれるのだと思う。

(委員)

- ・今が大切なときであり、必要な予算はしっかりと確保するべきであり、勢いを継続していただきたい。

(委員長)

- ・それでは、評価書については、これで決定にしたいと思う。微修正については、委員長に一任願いたい。
- ・今後は、評価基本方針にあるように、この評価について、法人に対して意見の申し立ての機会を与えることになるが、申し立てがあった場合の対応については、事務局と協議のうえ、私に一任させていただいてよいか。

(異議なし)

(委員長)

- ・本日の議事はこれにて終了とします。ありがとうございました。

(閉会)